

ずいひつ

んのような人はいないよ」話している中に彼の言葉は次第に辛らつさを加えはじめた。「もうほんとの公パブリック・コメント、僕トはいなくなつたということだ。役人だろが政治家だろが経済外交という名で、やっていることは自分の金もうけばかりじゃないか」「皆が皆そうでもあるまい」と私がいうといつも冷静な彼ははいすぎたと思つたのかうすく海の向うの電話口で笑つたようだった。そして「一人今、日本語でいう国士コクシがいるよ」「誰かね、その国士は」「ポール・ニッツニッツさ」「え？」と思わず聞き直した。「ハリマンさんをついでいるのはニッツだよ。あの右翼のニッツが今はホワイト・ハウスの対ソ外交が右の連中に引張られるのをくいとめる役の国士なんだよ」あの対ソ封じ込め政策の事実上の立案者であり、半ば歴史的な存在にも近いニツ

ツ氏がジュネーブでの米ソ交渉に隠然たる影響力を持っていることは知っていたが、ハリマンなきあと米国外交の「国士」と私の友人が評価していることに驚いた。

国という言葉が今、世界の中で次第に肩身の狭い思いをして

牛伏寺にて



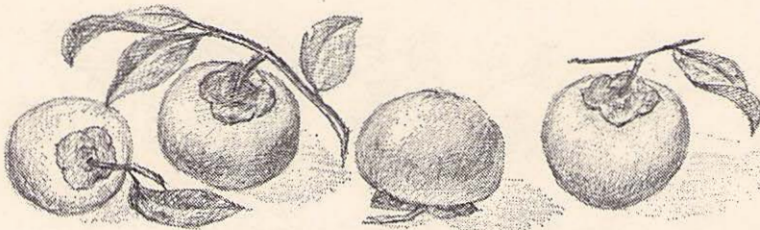
なか じま なるひこ
中嶋 嶺 雄
(東京外国語大学教授)

同じ大乘仏教なのに中国の寺と日本の寺とは、どうしてこんなに景観が異なるのだから

いる。国は経済というものには邪魔な存在だといわん許りの話が気の利いた表現のようにきこえてくる。ほんとにそんなところまで今の世界は変わったのだろうか。いや、私はそう思っていない。「国士無双」を評価する気持は些かも変わっていない。

う？ といった素朴な疑問に発し、結局、それは文治社会（中国）と武治社会（日本）の伝統の違い、「文」と「士」の民族性の違い、さらには日中間の美意識の違いに帰着するのではないかという結論に達している私は、正直なところ、中国の寺よりも日本の寺の方が美しいと思う。

日本の寺といっても、奈良や京都の名刹ばかりでなく、たとえば上田郊外の塩田平の前身寺や松本郊外・鉢伏山腹の牛伏寺といった信州の山寺の鄙びた趣



がなんともいえないと私は感じている。

松本平の厄除観音としても知られる牛伏寺（ごぶくじ）は、唐の玄宗皇帝の使者が大般若經六百卷を二頭の牛に積み、善光寺への奉納の途中、この寺の麓で突然斃れたという因縁で命名された真言密教の寺で、藤原期の重要文化財を多数蔵した由緒ある一山である。赤松、唐松、杉、檜の大木の茂りを背にした寺院全体の構成が見事で、五重の塔や三重の塔がないのに、これほど立体的なコンポジションを形づくっている点でもユニークだ。

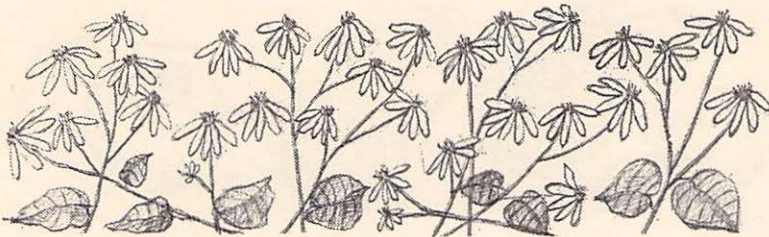
とくに開孔窓のような表門から見た本坊の格子の白壁、泉水池を隔てて見る如意輪堂の厚い茅葺屋根、観音堂脇のいささかスリムな廻廊などは、私の好きな風景だ。松本平からは一般には見えない穂高連峰も、このあ

たりまでくると姿を見せるのが、また格別である。

私の松本の山荘からは、車で二十分足らずなので、これまでも何人かのお客を案内したが、奈良や京都の寺を見てきた外国人が、このほか、この牛伏寺を気に入ってくれる。いささか郷土自慢が勝ちすぎているのではないかと自戒しつつも、たまたま松本へ講演に行かれるという猪木正道先生（平和・安全保障研究所会長、青山学院大教授）にお話したところ、猪木先生は講演のあと早速、牛伏寺を訪ねられ、その雰囲気魅せられて、今度は奥様をお連れしてまた行かれたとのこと、長く京大教授として京都の寺院を見つづかれた猪木先生御夫妻がそう感嘆されるのだから、たんなる郷土自慢ではないと思っただ次第である。

数年前の夏、軽井沢の中央公

論社の山荘で執筆していたとき、ドナルド・キーンさん（ロンビア大学教授）を塩田平にお連れしたことがあった。キーンさんも日本の寺を知りつくしている方だったが、前山寺などを大変気に入っていただけだったようで、今度は前山寺の法縁にも当たる牛伏寺へ御案内しますと約束しながら、まだ呆たしていない。今夏こそはと思っていた矢先、近著『少し耳の痛くなる話』（新潮社）を贈っていただけに恐縮しているのだが、私自身は、この夏も、丁度お盆の入りの八月十三日の夕暮れ、或る客人を伴って牛伏寺へ行ってきた。旧知の若僧正に本坊でお茶をいただいで外へ出ると、草木の香りを含んだ夏の夜の涼気が肌をさすようで、その静寂の夜陰に、遠く近く松本平の灯が明滅し、これぞ浄土と一瞬悟ったのであった。





月刊自由民主

10月号
目次

カラー

グラビア

永田町散策⑩
軽井沢セミナー
旅―先人たちのふるさとへ
21世紀への最前線⑩
目で見ると日本の現在地⑩
マンスリー・レポート

第6回軽井沢セミナー特集

【国際国家・日本の課題】

新時代を築く自民党の使命……………38

―一九八六年体制のスタート

中曽根康弘

自民党の勝因と今後の課題……………52

次回必勝への分析と取り組み

竹下 登

世界の信頼に応える道……………62

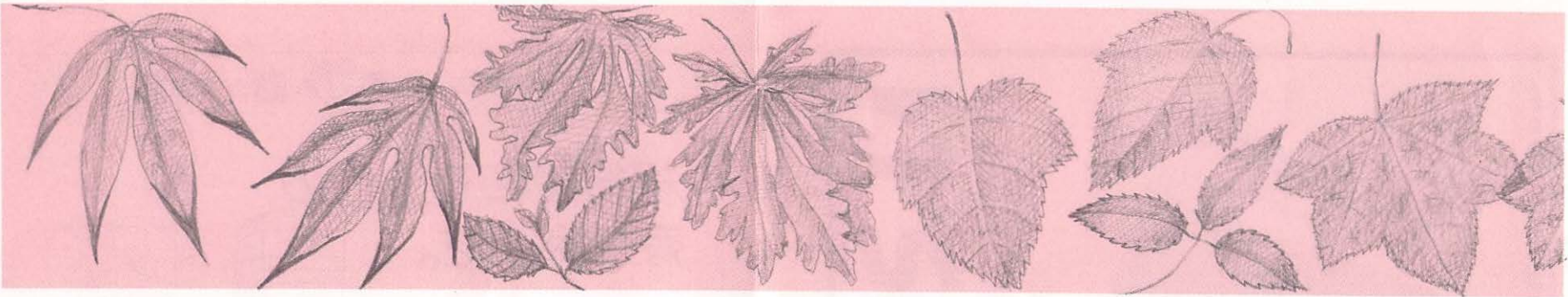
秘話でつづる安倍外交の三年八か月

安倍晋太郎

自由民主党の政策方針……………72

平和外交と内需拡大の推進

伊東正義



誠実外交こそわが国外交の基本……………80

日本外交の課題と展開

倉成 正

日本経済活性化への処方箋……………90

内需拡大と民活をどう導くか

近藤 鉄雄

経構研「報告書」の真意を語る……………104

経済構造転換のための三つの原則

前川 春雄

自民党「部会の研究」〈第十回〉

農林部会 II 日本農業の未来担う

……………148

〈部会長に聞く〉

発想の転換を求められる……………156

国際化時代の日本農業

近藤元次／竹村健一

農政批判に答え、新たな進路を探る

■論点 「藤尾発言」に思う……………26

インテリジェント……………石井威望……………28

シテイー化する東京……………徳山二郎……………30

日本は頭脳大国……………片岡鉄哉……………32

マッカーサーの「寛容」……………小此木啓吾……………34

強運国日本の戒め……………木村治美……………36

学校選択の自由……………

アメリカ側から見た……………

自民党の大勝利……………高橋 正武……………164

教育の潮流 ① 国立大入試改革は「ブーメラン」?……………178

新日本 ④ 鹿児島県上 ―薩摩隼人の血が生む質実剛健の気風……………186

地方から ③ 産業創造の拠点「ふるさとプラザ」―宮城県古川市……………194

ずいひつ 「国士無双」……………緒方 彰……………142

牛伏寺にて……………中嶋 嶺雄……………143

古城址めぐり……………宮崎 正弘……………145

地に足をつけて生きよう?……………佐々木久子……………146

俳壇 藤井 亘／矢島久栄……………雑詠選 松崎鉄之介……………116

歌壇 須永義夫／須藤若江……………雑詠選 石本隆一……………118

柳壇 奥田白虎……………雑詠選 藤島茶六……………120

■読書ガイド……………198

■囲碁指南……………204

■将棋指南 田村竜騎兵……………205

■天狗太郎……………206

■本部だより……………214

■政務調査会日誌……………220

■読者の声……………220

■編集後記……………220

イラスト・藤井祐二